

## はじめに

古銭の魅力に取り憑かれて三〇年、月日の経つのは早いもので私も「知命」の歳を迎えることになりました。

先般、『符合銭とともに』（不惑泉譜）を出版させていただいてより、各方面から「次（知命）は、日本銭についての発表を！」とのうれしいお言葉を掛けていただき、皆様のご期待にも副うべく取り組んで来た次第ですが、今回は書信館出版株式会社様の協力もあって、何とかここに『愛泉家雜記』（知命泉譜・巻）として出版させていただける運びとなりました。

もちろん、今回も多くの先輩方のご支援があったことはいうまでもありませんが、特に「日本貨幣協会」顧問の秋水亭・鈴木秋男師、「京都古泉会」会長の淳豊堂・吉田昭一師には一方ならぬご助力を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

さて、今回は「皇朝銭」、「鑑銭」、「寛永銭」という、日本の穴銭収集における大きな三つの分野（小平銭）から、それぞれを「雜記」という形で二〇話ずつ、これに補遺一五話を加えた計七五話からなっております。

幾分、分野に偏り（「鑑銭雜記」の永樂通寶など……）が見られますが、私自身の好みの問題もあり、お許しをいただきたいところです。

また、本書は特別古銭に詳しくない方にも気軽に接していただけるよう、なるべく平易な文章を心掛けたつもりです。

古い議論の蒸し返しなども多く、エキスパートな方にはもの足りない内容も多いとは思いますが、そのあたりはご了承ください。

この三〇年、特に日本の穴銭については幅広い分野の中から、それぞれポイントとなるべき主要な品を選定し、その周辺の収集に努めて来た次第ですが、今なお未入手の品（収集目標として掲げたもの）は数多く、「知命」にしてようやく道半ばといったところだと思います。

今後もこの道こそ私に与えられた「天命」と信じ、たとえその歩みは遅くとも着実に進んでいきたいものです。

本書が古泉界の裾野を少しでも広げる一助とならんことを願っております。

◇目次

はじめに

【皇朝錢雜記】

第一話	永遠の謎	6
第二話	我が国初の公式貨幣	7
第三話	第一歩の記憶	8
第四話	女神が微笑む	9
第五話	千年来の謎	10
第六話	見事な見解	11
第七話	古泉家の御守	12
第八話	ものを見る	13
第九話	大きな一因	14
第一話	蔭の珍品	15
第二話	心の整理	16
第三話	引く手あまた	17
第四話	異文ノ珍品	18
第五話	位付けの変遷	19
第六話	小さなメッセージ	20
第七話	器の差	21
第八話	努力と研鑽	22
第九話	独自の筆法	23
第一話	至福のひとつとき	24
第二話	厄介な問題	25
第三話	重要なポイント	27
第四話	思いを馳せる	28
第五話	夢のひとつかけら	29
第六話	苦い経験	30
第七話	出色の品	31
愛錢紹介		34

【鑑錢雜記】

第一話	千変万化	38
第二話	価格破壊	39
第三話	天下取り	40
第四話	最適な分野	41
第五話	大切な瞬間	42
第六話	生き証人	43
第七話	我が国初の記念貨幣	44
第八話	出典の明記	45
第九話	銭文筆致者	46
第一話	若き日の思い出	47
第二話	古泉界の宝	48
第三話	思わぬ記述	49
第四話	個人の感性	50
第五話	未開の沃野	51
第六話	古泉家冥利	52
第七話	華やかな顔ぶれ	53
第八話	徳川幕府初の貨幣	54
第九話	古泉界の認識	55
第一話	絆の家徴	56
第二話	土台違い	57
第三話	密かなブーム	59
第四話	新たな観点	60
第五話	遊べる未来	61
第六話	輝かしい成果	62
第七話	水山の一角	63
愛錢紹介		66

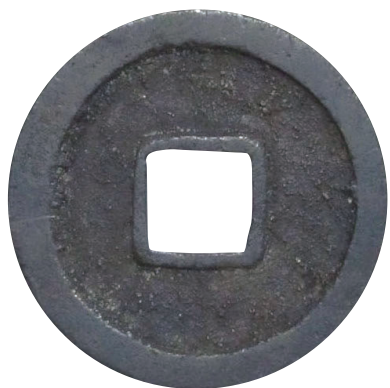
【寛永錢雜記】

第一話	古泉界の発展	70
第二話	記録を刻む	71
第三話	残る一席	72
第四話	東西横綱	73
第五話	異色の経緯	74
第六話	原動力	75
第七話	新たな輝き	76
第八話	格の違い	77
第九話	機が熟す	78
第一話	文化人への転身	79
第二話	最優先事項	80
第三話	耳目を集める	81
第四話	自らのルール	82
第五話	よき教訓	83
第六話	優れた見解	84
第七話	時代の申し子	85
第八話	好き嫌い	86
第九話	色替り	87
第一話	微笑ましい記述	88
第二話	甘い夢	89
第三話	思い違い	91
第四話	無知と肥やし	92
第五話	偶然の一致	93
第六話	銭籍移動	94
第七話	負のスパイラル	95
愛錢紹介		98
主要参考文献		100
おわりに		102



愛錢紹介

古和同開珎「広穿隸開」銅錢



古和同開珎「隸開」銅錢

新和同開珎「長珎」

